

東 海 書 道 藝 術 院

平成 29 年 8 月

<http://www.toshogei.jp/>



会 長 挨拶

平成二十九年四月十一日
(火)～十六日(日)、愛知県美術館ギャラリー・名古屋市民ギャラリー栄両会場に於いて、第六十四回公募東海書道藝術院展が開催された。十日の搬入を各部大車輪の奮闘で終え、十一日午前十時、第一会場・県美ギャラリー一八階で恒例の開場式を迎えた。役員・関係者皆、充実の表情。尾関陶山副理事長の進行で、始めに風岡五城会長挨拶。続いて、加藤宏幸中日新聞社名古屋本社事業局長をお迎えし、幹部と大賞受賞・棚橋藍水氏によるテープカットが行われ、会場は大きな拍手に包まれた。展示総数七四六六点。昨年、会場の都合で制約のあった作品形式が例年通りになり、壁面にはまた迫力が戻った。入賞者百七十四名。ホテルキャッスルプラザでの授賞式・祝賀会は、富永奇昂、安藤餘香両常任理事の司会で、厳粛かつ華やかに行われた。授賞式出席者は九十四名。式典では中日新聞社・西原健二様、衆院議員江崎鐵磨様代理、五禾書房・桑原喬様よりご祝辞を賜る。そして各賞の表彰、大賞受賞・棚橋氏の謝辞と円滑に進んで、授賞式は終了した。続く祝賀会では、大村名誉会長、加藤中日新聞社事業局長のご祝辞で、会場は凛とした空気に。そして後、賑やかな歓談の中、上位受賞者が壇上で今後の決意などを述べて、会場は大いに盛り上がった。褒賞

部はじめ各部先生方の奮闘に深謝。また、県美会場への入場者数が二千四百三十九人、市民ギャラリー会場は二千三十九人。延べ四千四百七十八人で昨年比九十四・八％。最終日には大村名誉会長が来場され、久野副会長、木村理事長、山本副理事長の案内で、熱心に作品をご覧になった。



開場式テープカット

第64回公募東海書道藝術院展

開場式・授賞式・祝賀会 詳報

テープカットに大きな拍手

平成丁酉歲首

圖南鵬翼

愛知縣志序 大村秀章書

名譽會長 豆子甲水之

老僧
吟塔
象
稚
子
斷
松
根
通陰山
丁巳年
冬
月
書

肥田水魚魚

会 長
風 岡 五 城



副会長 安藤清舟

稽亭匪口事 昨范儀安同飛可清芳
公為他省保靈藉 人百酌街花島外
羣向甘同堂 文推怡碧林 題於三月廿七
日 周雲雲 清書

曠心將江海
量與宇宙寬

副会長 久野北崖

常任参事 西尾 邑城

利獸自食其肉

常任参事 水谷 紅 楓

可憐千疊舊山秋
 已落一溪雲水愁

理事長 木村大澤

副理事長 故竹内小徑

夏付
録

副理事長 松浦白碩

春風化雨
福百世

副理事長 山本 晴城

菊
花
綸

醉折殘梅宿雨前
落红自逐御沟邊
黃鸝地力窮田竟
是強催歸不覺然

会員の部 大賞 棚橋藍水

花迫春樓佳客心萬方多難此登臨錦江春色來
天地玉峯浮雲覆古今北極朝迄終不改西山莫侵可憐
波主還相，劇日暮為梁甫吟 丁酉春日 錦江翁雪後接 舊水

会員の部 準大賞 山田芳穂

洞門高瓦宿餘輝
桃李陰移忽見花
燕裏餘輝在舍晚
省中啼鳥怨
主人憐
晨搖玉佩趨金殿
夕奉玉杯捧玉盤
頭上珠冠從去
甘於戎將
因臥病解衣臥堂
中宣玄彈碧篋
嗚呼保公
公的月未照

花隱接垣暮吟橋雪過星臨萬名動
月傍九霄多不寢聽金輪日風想玉珂

会員の部 知事賞 中林光露

長安大道在斜街，今日方去。去至東經樓邊，見弟生整裝將向侯府報
謝，雲云。不日，風信來，謂弟一曉，而數百文捷在手中，一摩當為
此。弟心，則知弟之報謝云云。生名獲，通云。雲作字，弟實於此。長安云。

会員の部
領事館賞
伊藤恵翠

市巾臨天地都為君遠行
 朝陽書畫一雙
 鞍馬未歸城草草太歲月晚
 解河雲雪
 清別離之昨日因見友人信
 蘇東坡珠香二

会員の部 県教委賞 加藤珠香

朝露白帝彩雲間
子江後一日書西峯

梅影啼猿聲色已過萬重山

張大千

會員の部 中日賞 今枝櫻舟

会員の部 中日賞 今枝櫻舟

寒而暮郭夜泊船南湖新漲水連天
風流不見秦淮海癖實人百五十年

歲在辛未丁酉新歲旦日設初高郭而泊也辛未年正月五日題

會員の部 中日賞 加藤紅華

会員の部 中日賞 加藤紅華

會員の部 東書藝賞 神野富子



Handwritten Japanese calligraphy in cursive style (sōsho), consisting of several vertical columns of text. The ink is dark on a light background.

会員の部 東書藝賞 神野富子

東書藝幹部による

第六十四回展 私の選んだこの作品

幹部の六名の先生方に、賞の対象とはならない院人（常任理事以上の役員を除く）の中から、ご自分の社中以外でこれと思う秀作を八点選んでいただいた。その方々のお名前と、内二作品の講評および作品写真を紹介する。

風岡五城会長

①野口桂風

金文にしてはやや荒つぱいが、それがかえってほぐれた華やいだ雰囲気をもしている。思い切りのよさ、大胆さをとる。

②大場映翠

全体に字形を縦長にとりながら単調にならず、行間を通してさわやかな印象を与える。また、二行目の「新」「花」など、やや大きめに書いた字も効果的である。

③水谷 紫舟

⑤平松 文子

⑦松田 真香

④小川 若紫

⑥浅井阿由美

⑧三浦 希留

安藤清舟副会長

①内海 清秋

がつている。

②信藤 緑華

賈至詩。練度のある力強い筆捌きで、結末も良く充実感のある作。

構成と余白の均衡が良く保たれている。

③裏川 紫翠

⑤伊藤 春草

⑦大西 紫蓉

④松井 光楓

⑥蔦 皓月

⑧河瀬 魚仙

水谷紅楓常任参事

①蔦 皓月

大胆な運筆と、筆線の強さが魅力。堂々たる書きぶり他を圧倒する。又、落款と本文二行の充実で安定感ある秀作。

②夏目 螢水

鋭い斬りつける様な線がよく利いて自信溢れる書。筆よく動き、躍動感で三行をまとめ上げた快作。

③須藤 春華

⑤太田 禮香

⑦三村 菱花

④内海 清秋

⑥松井 恵仙

⑧村瀬 蕙風

西尾邑城常任参事

①小島 芳泉

金文の作。和の禾（のぎへん）

カ）を大胆に斜めにその上に命（ふえ・ヤク）をメて密に、

爲は象（ぞう・ショウ）のドッ

シリ感を、貴は軽くして譯文

でめめた。章法とデフォルメ、

素晴らしい。

②伊藤 瑤綵

三島流の流れを踏まえて？長鋒を駆使して一気呵成にした筆触は、観者に爽やかさを感じさせる。見事。

③佐野 小徑

⑤小川 若紫

⑦三田 敬華

④市古 清楓

⑥角脇 尚園

⑧大西 紫蓉

木村大澤理事長

①蔦 皓月

大胆な筆さばきから生まれる力強い行草書。気迫こもる一字一字が一紙融合し、生命感溢れる作品になった。

②梶 蘇山

墨の潤渇で作品に立体感をもたせ、字々悠然としておらかさを表現した魅力ある作である。

③小川 若紫

⑤大竹 翠葉

⑦伊藤 緑穂

④佐野 小徑

⑥大西 紫蓉

⑧平松 文子

林江復年而極其更革 吾煙花浩
家僅一掃一掃一掃一掃一掃一掃

木蘭之柑沙棠阜玉簪金管坐而頤美
樽中置子斛載收隨波任去留仙人有待乘黃
鶴河客無心隨白鷗左手相點髮月雙玉臺
漱空山堂與醉落筆一程玉玉於其笑
微淡淡洲知名堂堂長長壯漢水亦應願大流
李白白江上吟丁酉七月於京之卷卷閣

去月一塵獨得斗杓銀河逐月動影每三月既解飲徒
隨處芳華伴月情影月來月去春亦歌月徘徊不歸影影
醒時同夜歌歸後如分散無依云佳杜杜和承字譜

公壯年自許以爲遊歷者老猶能語我紹興之山水
先應爲第一層山水初十日起乘舟橫塘登凍翠閣
眺衆香園觀正德後孫與海王對峙之石

白馬金鞍從武皇
旌旗十萬宿長楊
樓頭少婦鳴箏坐
遙見飛塵入建章

このおもひは
うゝふ おもや
いし 袖
わづのそかり
な
秋の
ちり

⑤

不^レと^レい^レく^レは^レ、^レ所^レに
ほ^レち^レあ^レう^レす^レが^レれ
あ^レの^レマ^レチ^レヤ^レ
・あ^レや^レわ^レ建^レ志^レ
神^レを^レ月^レに^レと^レさ^レ
あ^レの^レわ^レあ^レ
あ^レく^レく^レあ^レな^レ
あ^レあ^レあ^レな^レ
た

秋の風
 何事か
 あゝの
 能く我
 一と云ふ
 一と云ふ
 一と云ふ
 一と云ふ

山東富饒十餘
後夫風流一養

款曰孤飛一片雪
丙申年
吳昌碩書
吳昌碩印

河瀬魚仙

第六十四回東書藝展 受賞者に聞く

今年も東書藝展で栄えある賞に輝いた皆さんの中から、会員、準会員の部の上位入賞者の皆さんにアンケートに答えて頂いた。

書に対する姿勢や考え方の一端がうかがえるので、参考にされてはと思う。また受賞者の作品の一部は3頁に掲載したので併せてご覧の程を。

設問内容は以下のとおり。

- (1) 現在学んでいる古典は何か。
- (2) その古典からどのようなことを学ぼうとしているか。
- (3) 今回の出品作で、表現上最も力を注いだのはどんな点か。
- (4) 今回の出品作で、用具用材(筆、墨、紙など)を工夫した点はあるか。
- (5) どのような「書道観」をお持ちか。又は、あなたにとって「書道」とは何か。
- (6) 受賞された感想と今後の抱負。



棚橋藍水

◆会員の部 大賞

- (1) 陳鴻壽。
- (2) 線の美しさ。運筆。
- (3) 墨量と全体のバランスを意識しました。
- (4) 使い慣れた筆と墨を使用しました。
- (5) 飽き性の私が唯一続けられているもの。筆を手にし、紙に向かっている時間は、ただただ無心になれる貴重な存在で

す。

(6) この度は、思いがけず大賞という栄誉ある賞をいただき、大変光栄に思っております。ご指導下さいました風岡先生をはじめ、諸先生方に深く感謝申し上げます。まだまだ未熟な私ですので、今後はより多くの古典を学び、様々な書風の作品が書けるようになりたいと思っています。御指導御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



山田芳穂

◆会員の部 準大賞

- (1) 王鐸。
- (2) 躍動的な運筆や線質の変化。
- (3) 運筆、墨の潤渇。
- (4) 紙は夾宣、筆は兼毫。
- (5) 書道は奥が深く、苦しい時もありますが、心を豊かにしてくれる、生涯学んでいきたいと思えるものです。
- (6) この度は、身に余る立派な賞を頂きありがとうございます。今日まで書道を続けてこのような賞をいただけたのも、日頃よりやさしく熱心に御指



◆会員の部 知事賞



中林光露

導してくださる志字一燁先生、そして諸先生方のおかげと心よりお礼申し上げます。まだまだ勉強不足で分からない事ばかりの私ですが、良い書を書けるよう日々精進して参りたいと思います。

- (1) 書譜
- (2) 文字のリズム感、形の面白さ。
- (3) 墨量、文字のバランス。
- (4) 使い慣れたもの。
- (5) 「書道」は日常の雑事を忘れ、静かに自分と向き合う一とき。
- (6) この度は身に余る賞を頂き、ありがとうございます。これも偏に諸先生方の御指導のお蔭と、心より御礼申し上げます。今後も受賞の感激を忘れず、「書の上達は感覚の洗練と手の習練との両立にある(穿石一言録)」を心に、焦らず黙々、楽しみながら「書」を学んでゆきたいと思っています。

◆会員の部 領事館賞



伊藤恵翠

- (1) 王鐸。
- (2) 変化にとんだ字形や運筆法。
- (3) 墨量と文字の変化。
- (4) 普段使っている物です。
- (5) 心静かに自分と向き合え、生涯楽しめる大切なものです。
- (6) この度は身に余る賞を頂き大変恐縮しております。これもご指導頂いている山本晴城先生はじめ諸先生方のお蔭と深く感謝申し上げます。

◆会員の部 県教委賞



加藤珠香

- (1) 枯樹賦。
- (2) 不思議なバランスのとれた字形。
- (3) 余白が多くなりがちなので、

墨量を保つ様、注意しました。

- (4) 様々試してみましたが、結局使い慣れた羊毛長峰筆と、じみの出る薄めの紙に書きました。墨は機械ではあります

- (5) 樹木の幹にあたるものと感じています。太い幹になる様に、丈夫な根をはり、枝葉を広げて行きたいと思います。
- (6) 思いもかけない受賞に驚き、今後とも賞に値する努力をして行かなくてはと、身の引き締まる思いです。十五年もお世話になった、故勝川恵香先生、突然の入門にもかかわらず、的確なご指導で受賞へと導いて下さった安藤餘香先生へ、心から感謝申し上げます。

◆会員の部 中日賞



加藤紅華

- (1) 集字聖教序。三体千字文。
- (2) 運筆。線質。
- (3) 墨量。腕全体を使ってリズムよく書くこと。
- (4) 使い慣れた用具。

(5) 私にとって書道とは、自分を磨き高め、人生を豊かにするため努力するものです。

- (6) この度は身に余る賞をいただきありがとうございます。ご指導いただいています安藤清舟先生のお蔭と、心よりお礼申し上げます。今後も更なる精進をいたします。

◆会員の部 中日賞



今枝櫻舟

- (1) 王羲之、王献之の技法。
- (2) 運筆、美しい造形（結体）。
- (3) 墨量を多めに、速度の変化で力強さを表現しました。
- (4) 使い慣れた。短毛筆と紙。
- (5) 書道は、集中力を養い、心を落ち着かせます。私にとって自分を成長させるために、欠かせないものです。
- (6) この度は、身に余る賞を頂きありがとうございます。今枝大軒先生に心から感謝しています。これからも色々な古典を学び、楽しみながら良い作品ができるよう、日々精進

したいと思っています。

◆会員の部 東書藝賞



神野富子

- (1) 十七帖。
- (2) 線質、筆法。
- (3) 墨の濃淡、線質に注意しました。
- (4) 使い慣れた、梓会のか用中筆、紙、墨。
- (5) 書道を通じてすばらしい先生方や、多くの仲間と出合うことが出来ました。私にとってかけがえのないものです。そして筆を持ち、紙に向かう時の集中・緊張感がとても好きです。
- (6) 受賞に驚きと喜びを感じると共に、ご指導下さった梓会理事長の伊藤春魁先生、そして諸先生方のお蔭と心より感謝申し上げます。未熟な私ですがこの賞を励みに日々精進して参りたいと思います。本当にありがとうございます。

◆準会員の部 市長賞



水野白蓮

- (1) 張猛龍碑。
- (2) 線質、呼吸。
- (3) 全体の墨量のバランスと行の流れに注意しました。
- (4) 使い慣れた物ですが、墨量の流れが自然になるように大きめの筆を使用しました。
- (5) 書道は、私を支えてくれる存在です。心身共に鍛えてくれる書道がなければ、今の私はいないと思います。
- (6) この度は、このような素晴らしい賞を頂き大変嬉しく思っております。この賞を頂くことができましたのも、ご指導いただきありがとうございます伊藤緑穂先生を始め、諸先生方のお蔭と深く感謝しております。七歳の頃から書道を習い始めましたが、最近ようやく書道と正面から向き合う覚悟ができました。この受賞を励みにこれから精進して参りますのでご指導をよろしく願います。

◆準会員の部 県教委賞



宮田杏花

- (1) 集字聖教序。
- (2) 線質。字の形。
- (3) 線質。字の組み合わせ方。リズム。
- (4) 使い慣れた道具を使いました。私にとっての「書道」は、人生に揺がりをもたらしてくれる存在です。日常を忘れ、自分に向き合える貴重な時間です。
- (6) この度は身に余る賞を頂き、誠にありがとうございます。いつも熱心に御指導下さる水谷紅楓先生をはじめ、諸先生方のおかげと感謝しております。今後もより一層の精進をして参りたいと思います。

◆準会員の部 市教委賞



中根静流

- (1) 道因法師碑。王鐸。
- (2) 運筆、線質、字形。
- (3) 文字の連続性と余白を意識した

行の流れ、明暗。

(4) 兼毫筆。中国画仙紙。

(5) 書道は、自分自身を振り返る時間。毎日筆を持つことは、退職後の人生の糧であります。

(6) この度は、伝統ある東書藝展で名誉ある賞をいただき、誠に有難うございました。

これもご指導してくださった風岡五城先生のお蔭であり、感謝申し上げます。また、宏道書会の先生方、そして、教室の書友の皆さんのお蔭であり、重ねてお礼申し上げます。今後も書道という長い上り坂となりますが、この賞を励みに一層精進してまいります。

最後に、東海書道藝術院の益々のご発展を願っています。

◆準会員の部 中日賞



吉戸清華

- (1) 王羲之。智永千字文。
- (2) 運筆。美しい線。
- (3) 墨量とバランス。
- (4) 使い慣れた筆。
- (5) 私にとって「書道」とは、人との繋がりを感じられる芸術

です。多くの素晴らしい作品を目にし、その想いを想像する時間は大変貴重です。

(6) この度は、素晴らしい賞を頂きありがとうございます。驚きの気持ちでいっぱいです。始終熱心なご指導を頂いた今枝大軒先生に心より感謝しております。作品制作時、心が折れそうになった際、先生の御言葉が思い出され、どれ程励みになったか知れません。今後も、この賞を励みに精進して参りたいと思います。

◆準会員の部 東書藝賞



杉原弘子

- (1) 高野切一種。関戸古今集。
- (2) 流麗な線の流れ、そこにある運筆の遅速を学んでいます。
- (3) 墨をたっぷり含ませ、肩に力を入れない様に心掛け、濃淡に留意しました。
- (4) 普段使っている、墨、筆を使いました。
- (5) 「書道」とは、ひたすら手本を見て書く事、日常の事を忘れ、夢中になれる、大好きな

時間です。

(6) 七十の手習いで始めた書道で
ございます。思いがけない、
素晴らしい賞を頂き、ありが
とうございます。温かいご指
導を頂いております、伊藤春
魁先生のお蔭と感謝申し上げ
ます。

梓会の諸先生の「元氣！頑張
って」、との励ましの言葉は、
私の力になっております。良
き先輩、書友に恵まれ幸せに
思います。今年八十三歳にな
ります。一日でも長く稽古の
出来る事を願っております。

◆準会員の部 東書藝賞



松尾華景

- (1) 楷書 九成宮醴泉銘。
- 行書 蘭亭叙。
- (2) 運筆。線質。
- (3) お手本に忠実に、かつ線の強
弱を意識しました。
- (4) 普段使い慣れている筆、墨、
紙を使用しました。
- (5) 「書道」は私にとって「無」
の時間を与えてくれる大切な
ものです。また墨の香りが心

を落ちつかせてくれます。

(6) この度は思いもよらず大きな
賞をいただき、驚きと同時に
大変恐縮しております。これ
も御指導してくださる安藤清
舟先生のお蔭と大変感謝して
おります。技術的なことはも
ちろん、書道の楽しさや奥深
さを教えてくださる先生の御
指導のもと、これからも楽し
みながら精進して参りたいと
思います。本当にありがとうございます。



古稀 陶山書展

ギャラリィ池下2112

尾関陶山副理事長が古稀展をギャラリィ池下2112（出窓ギラ
リィ）で開催。陶山塾師弟の力が結集された心とむ個展。先生の
益々のご健筆を願うものです。

陶山塾 塾生一同

代表 布目一路

七月十八日（火）～二十三日
（日）まで、師、尾関陶山の古
稀を祝して個展を開催いたしま
した。

池下の有名シェフのお店の立
ち並ぶセントラルガーデンを背
に、こぢんまりとしたギャラリ
ーを見つけ、師の魅力の出せる
個展をイメージ、一年計画で準
備してまいりました。

私達は個展にまったく不慣れ
で、ギャラリィは押さえたもの
の試行錯誤の連続。作品制作を
師にお任せしましたが、「こう
してみたら…。アーしてみてもど



う？」と身の程知らずの駄目出
しで、師を奔走させました。そ
れでも師も私達も随分楽しんで
制作出来たと思っております。

作品を一同に集めて展示の運
びとなりました時には、皆様方
の反応への不安と共に何か言葉
に表せない感動を覚えました。
馴染みがなく、わかりづらい
会場にもかかわらず遠方より多
数おいで頂き、予想を超える来
場者数でした。またお祝いの
品々、お言葉を賜りありがとう
ございました。これを新たなス
タートとして師と共に歩いて行
きたいと思っています。これか
らもうよろしく願ひいたします。

平成29年度 東書藝総会

六月十八

日(日)、

東区中電ホ

ールにて

東書藝総

会が開催さ

れた。会員

数九百十五

名、出席者

二百二十

名、委任状預かり五百三名、合

計七百二十三名にて総会は成

立。司会は羽根田菖風常任理

事。今枝大軒参事による開会の

言葉に始まって、風岡五城会

長、木村大澤理事長挨拶の後、

司会者一任により議長に伊藤春

魁常任理事が選出され、次の議

事が丁寧に進行了た。

①平成二十八年事業報告

②平成二十八年会計報告

③平成二十八年監査報告

④平成二十九年事業計画並び

に予算案

⑤新役員について

以上の案件が報告・審議さ



れ、それぞれを承認。また幹部会において推挙・委嘱された木村大澤理事長が再任を快諾され、会場は大きな拍手に包まれた。そして第六十四回展による昇格者百六名を代表して、山田芳穂氏に委嘱状を授与。最後に山本晴城副理事長より十一月に予定されている東書藝・揚州市友好書法展の説明があり、水谷紅楓常任参事の閉会の言葉で総会は滞りなく終了した。

休憩をはさみ、奈良教育大学教授・谷川雅夫先生により、

「日本近世近代の書」の演題で講演会が行われた。インターネッツ社会の現代で、我々の書芸術をいかにして良くするかの手立てを日本近世近代の書から求める、ガテ

ーマのお話
しで、会員
一同真剣に
聴き入って

いた。



追悼 竹内小逕先生を偲んで

五月九日、副理事長・竹内小逕先生が急逝された。あまりに突然で、未だ信じられない思い。心よりご冥福をお祈りします。

山元 青園

昭和五十年に編物教室で小逕先生と出会い、その後その教室で先生は書道教室を始められ、私はすぐに、長男長女を先生に託しました。その後私も孫もお世話になり、子供達は部活等で止め、私だけが三十年以上教室に通い、又都合で清書をお休みした時期もありました。

先生は素晴らしい書道家であり、東書藝、宏道書会の裏方もしっかり守って下さった気配りの温かい方でした。つい先日には「書道止める時は同じに、もう少し頑張ろうね」と約束したばかりでした。

最後になつてしまった産経書展、亡くなる十日余り前、病院の談話室で私達弟子の作品に印を押されていたお姿が目に残っています。最後まで本当に、ありがとうございました。

さよなら……

羽根田 菖橋

突然の悲しい知らせに一瞬声も出ず…、ご回復を信じていた矢先のことでした。竹内先生はかな作家として、大字、小字多字作品両面で変化に富んだ素晴らしい作品を常に発表されてきました。

又、書会のために、本当に誠心誠意尽くされてきた方でした。行事の時期がくると、正確に書類が出来上がっていて、「次はこれね」と仕事をこなしていらつしやいました。深く感謝するばかりです。二、三年前から、夏場でも時々咳込んでおられる時があり、心配する私に、「大丈夫よ」と笑いながら言われことを思い出すと、残念でなりません。四月三十日の夕方に「お願いがあるので来てほしい」との電話があり、病室に菖風と伺って用事をお聞きし、帰り際に「みんなで風岡先生を支えてあげてね」と言われたのが最期となりました。今は、ただ安らかに眠りになられますようお祈りいたします。

合掌

第30回 麦 積 書 展

岡 崎 市 美 術 館

岡崎市美術館での第30回麦積書展（麦積会主催）を訪ねた。嬉しいことに復帰された今井麦苑常任参事のお元気な姿が会場に。地元新聞の取材もあり盛会だった。

第30回麦積書展を終了して

今 井 麦 苑

平成二十九年六月七日より十一日まで岡崎市美術館で開催することが出来ました。今年も多くの参観者を迎えることが出来て出品者一同、心より感謝しております。本年も寸法の際限もなく漢詩、大字書、近代詩など題材を選んで書き上げた力作が揃いましたが、小品の部も身近なものとして好評でした。今回は三十回の節目となり、



これからの活動の在り方を会員と考へて行かなければと思っております。

元東書藝会長の浅田蓬村先生が鬼籍に入られた折は、東書藝や地元先の達の強い後押しを頂き、暗中模索の中で会が発足し、力を合わせて歩んで来られたこと振り返れば感無量です。これからも古典に基いた生命感のある書を、そして見た人の心にもふれる作品をと願うこのころです。

'17「今日の書」代表作家展

平成二十九年七月十八日～二十四日

中日ギャラリーにて開催。以文会、玄玄書作院、書典社、東書藝の四団体から二十七作品を展示。東書藝は幹部十一名の出品で、流石の存在感を示す。本院出品者作品写真を掲載します。

豆子甲水之

風岡五城

尾関陶山



久野北崖



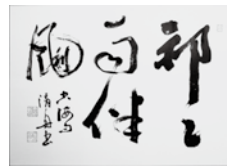
安藤清舟



水谷紅楓



木村大澤



松浦白碩



山本晴城



岩田冬崖



西尾邑城



川重



岩田冬崖

訪中行事決定

来る十一月二十二日(水) 書藝創立六十五周年(来年)行事として、東書藝・揚州市友好県・江蘇省書道展が開催されることとなった。東書藝からは、幹部十名の出品。これに伴い東

東書藝・揚州市友好書法展出品申込締切る

総出品点数 堂々の二二七点

日中国交正常化四十五周年記念、日中平和友好条約締結四十周年記念、また来年は、東書藝創立六十五周年ということで、「東書藝・揚州市友好書法展」を揚州市で開催します。

七月末で申込を締め切りましたが、大変多くの院人・会員の方々にご出品頂けることになりました。本当に有難うございます。東書藝のまとまりの良さ、固い絆を感じました。今後、展覧会の成功に向けて、一歩ずつ準備を進めてまいります。訪中(南京市・揚州市の観光あり)

理事長 木村 大澤

の受付は、まだ余裕があります。是非皆様のご参加を待ちしております。詳しくは、木村まで。

社中の歩み

- ◇第39回宏道書会選抜展
会期 29年5月16日～21日
主催 宏道書会(山本晴城)
- ◇第30回麦積書展
会期 29年6月7日～11日
主催 麦積会(今井麦苑)
- ◇第24回無名會書展
会期 29年6月27日～7月2日

主催 無名會(渡辺清香)

◇第59回新道書道会展
会期 29年6月30日～7月2日
主催 新道書道会(豆子申水之)

◇'17心象展
会期 29年7月11日～17日
主催 好日社(岩田東崖)

◇古稀陶山書展
会期 29年7月18日～23日
主宰 尾関陶山

◇第7回稻香印社展 篆刻と書
会期 29年7月25日～30日
主催 稻香印社(梶田稲州)

◇第43回宏道書展
会期 29年8月22日～27日
主催 宏道書会(山本晴城)

今後の予定

◇第60回游心書展
会期 29年9月5日(火)～10日(日)
会場 愛知県美術館ギャラリー

主催 游心書道会(松浦白碩)

◇第51回碩山書院一門展
会期 29年9月9日(土)～10日(日)
会場 蒲郡市民会館東ホール
主催 碩山書院(大竹翠葉)

全振興会

◇第21回東書藝小品展
会期 29年9月12日(火)～18日(月)
会場 中日ギャラリー

主催 東海書道藝術院

◇第18回心書会展
会期 29年9月29日(金)～10月1日(日)
会場 龜山市文化会館

中央コミュニケーションセンター

主催 心書会(安藤清舟)

◇第41回公募梓会書道展
会期 29年11月21日(火)～26日(日)
会場 愛知県美術館ギャラリー

主催 書道研究梓会
(勝川香艸・伊藤春魁)

◇第34回花墨会展
会期 29年12月9日(土)・10日(日)
会場 三重県菰野町図書館2階
展示室

主宰 松岡麗泉

編集後記

◇東書藝九年ぶりの訪中と友好書法展開催が決定。一致団結してきつと成功させたい。
◇酷暑はもはや当たり前の日本の夏。皆様十分ご自愛下さい。第132号をお届けします。

平成二十九年八月 第一三二号

発行 東海書道藝術院

編集 加藤 松亭

堀江 龍舟